

Leader



会社説明資料 リーダー電子（6867）

2023年5月27日

<https://www.leader.co.jp/>

会社概要並びに事業概要

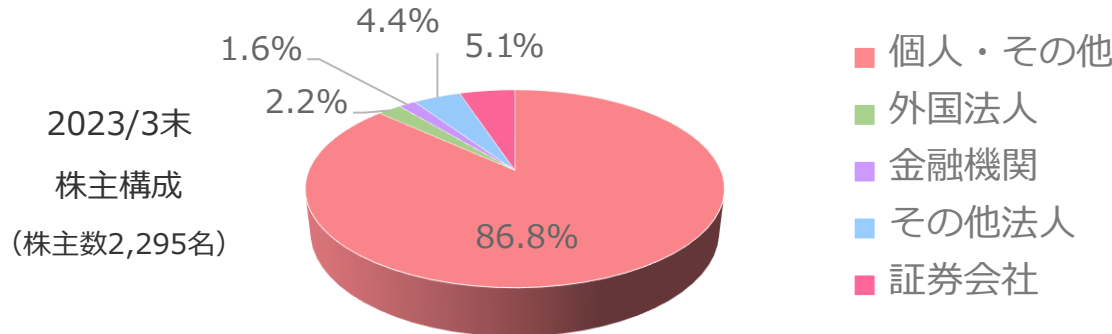
会社概要

商号:	リーダー電子株式会社 (スタンダード上場 6867) LEADER ELECTRONICS CORP.
設立:	1954年5月1日
事業内容:	電子計測器の研究開発・製造・販売
本社所在地:	神奈川県横浜市港北区綱島東2-6-33
資本金:	1,331百万円 (株主数 2,295名) 2023/3末
決算期:	3月31日
従業員数:	80名(正社員) 2023/3末
役員:	代表取締役社長 長尾 行造 他常勤取締役 2名、社外取締役 3名 (監査等委員会設置会社)
子会社:	海外販売子会社4社 (米国、中国、韓国、英国) Phabrix Limited(2019年7月100%買収)



代表取締役社長 長尾 行造

1997年4月 通商産業省 (現経済産業省) 入省
 2001年4月 ブーズ・アレン・アンド・ハミルトン
 (現プライスウォーターハウスクーパース・ストラテジー) 入社
 2002年1月 コーポレート・ディレクション入社
 2015年6月 当社取締役
 2017年6月 当社代表取締役社長 (現任)



当社経営理念・ビジョン

企業理念

「計測を通じ、豊かな社会づくりに貢献する」

「創造と革新」

「知恵の結集と研鑽」



経営ビジョン

外部環境変化を先取りし、社会のイノベーションを積極的に促す

計測技術を基盤としつつも、モニタリング、ソリューションへと時代の要請に応じて計測の形態の進化にチャレンジする

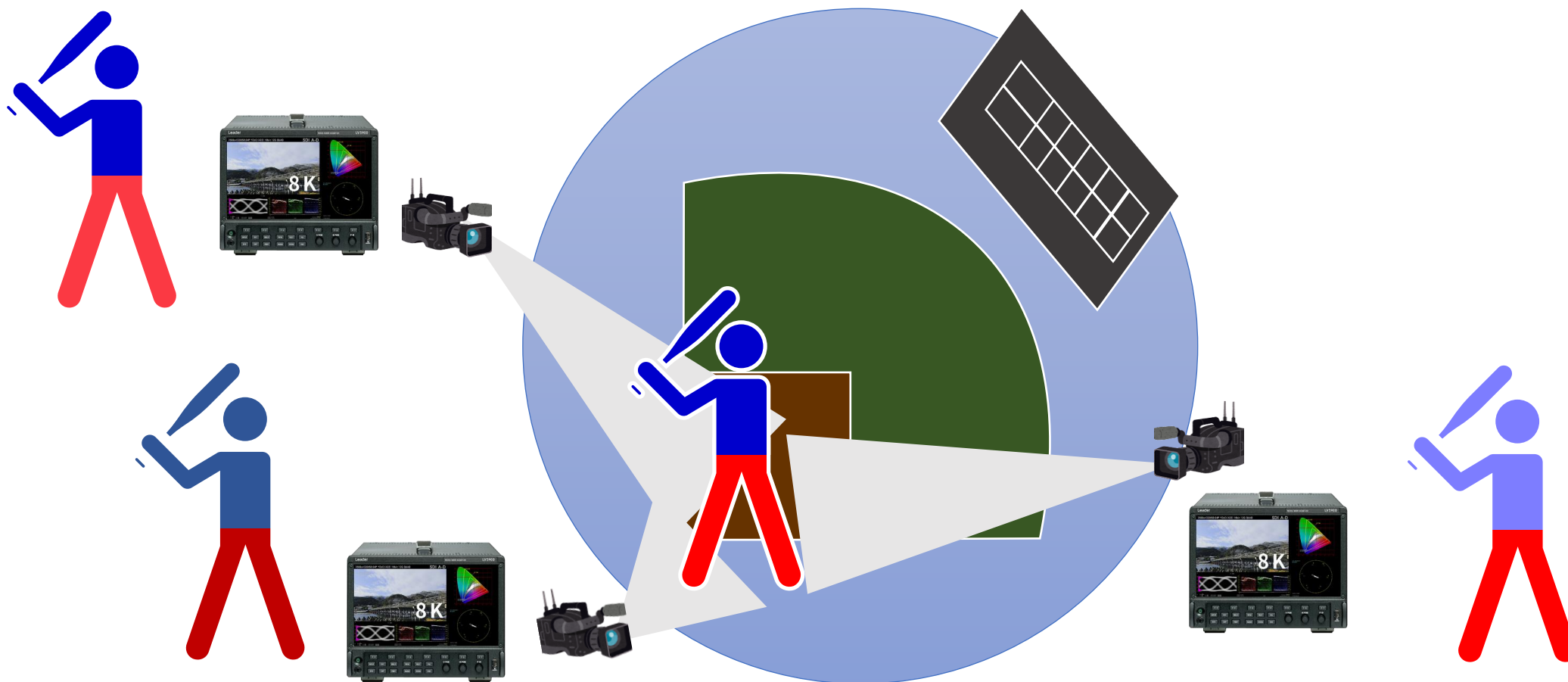
社内外の垣根を越えて知恵を結集し、スピーディな創造と革新を推進する

地域や属性の違いを建設的に受容し、「日本」の枠に束縛されない企業行動を実践する

取引先、従業員、株主の共栄を追求する

波形モニターの役割

複数のカメラ間でおこる色味の違いを調整するための装置



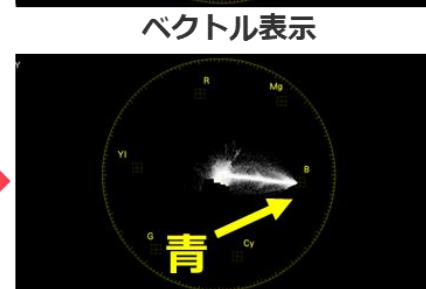
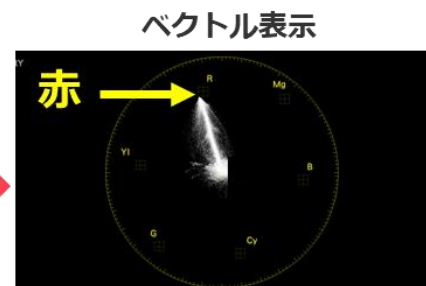
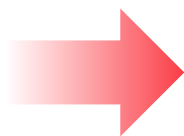
波形モニターの役割



弊社の波形モニターは
ビデオ信号のレベルや
色の測定がおこなえます



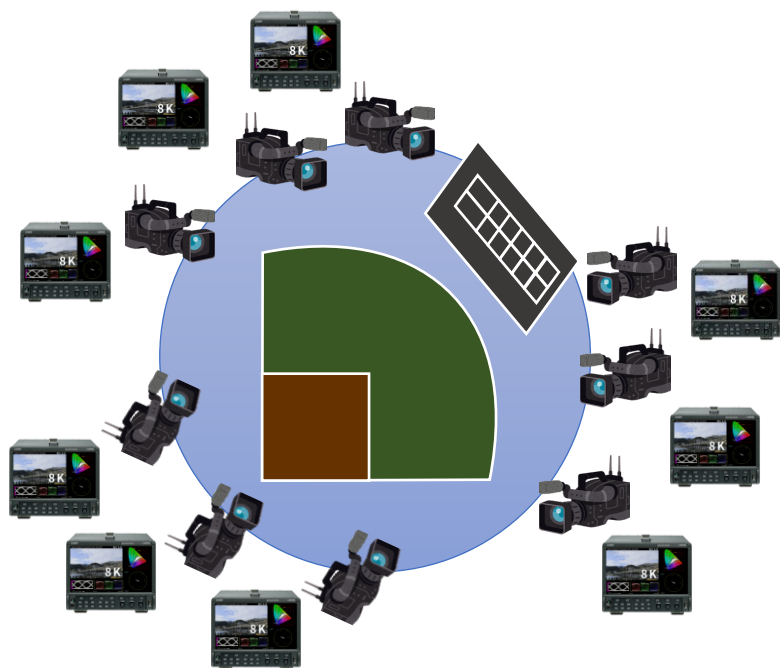
放送機材のビデオ信号



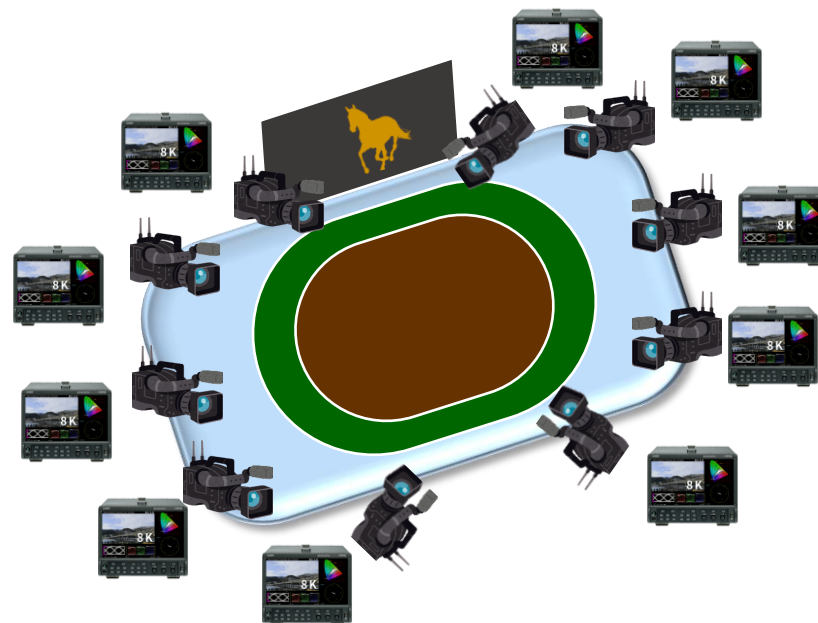
導入事例 スポーツ施設

施設に設置されたカメラで映像コンテンツを制作

□ 野球スタジアム（海外）



□ 競馬場（日本）



WBCの中継でも活躍！



23800516.ai

販売拠点

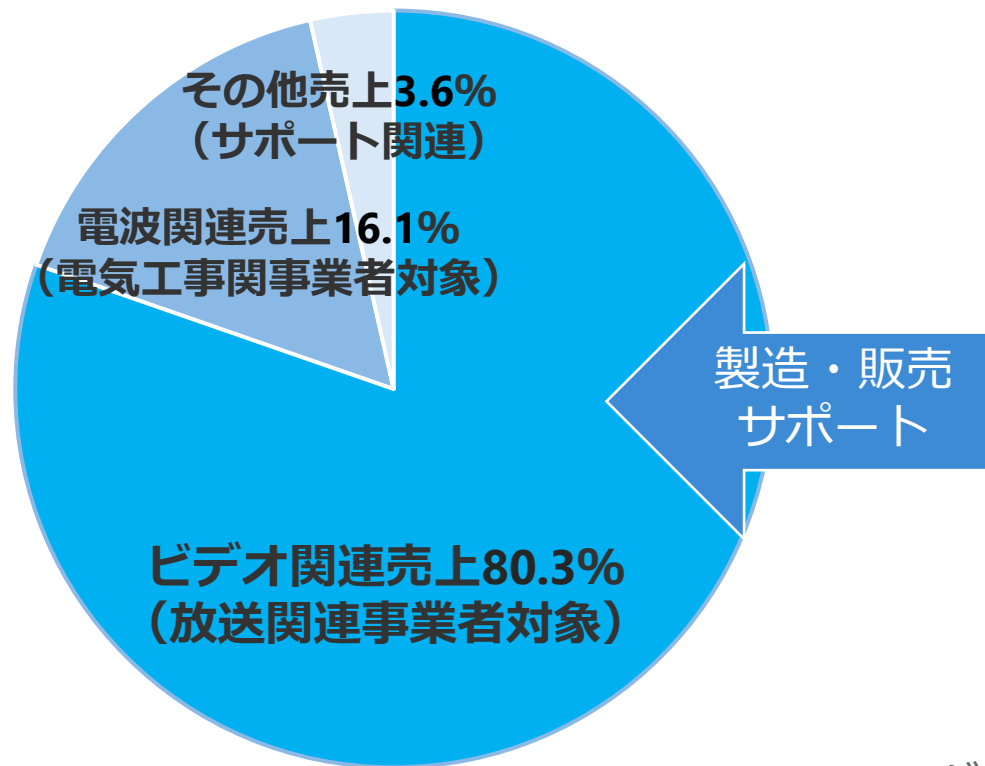
全世界をカバー



事業概要：世界シェア2位！

創業以来の「計測のプロフェッショナル」
として、幅広い産業を支援。

2023/3期 売上高40億円



製造・販売
サポート



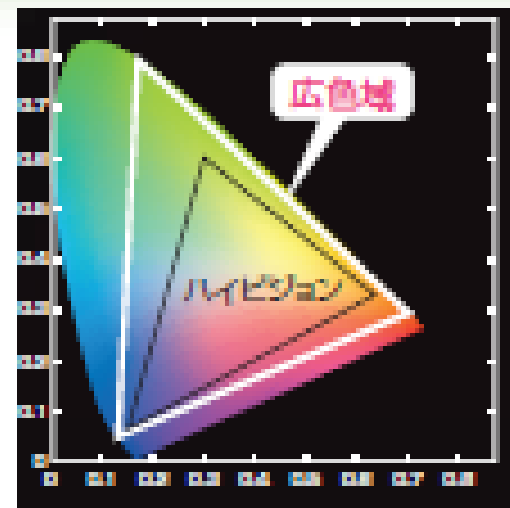
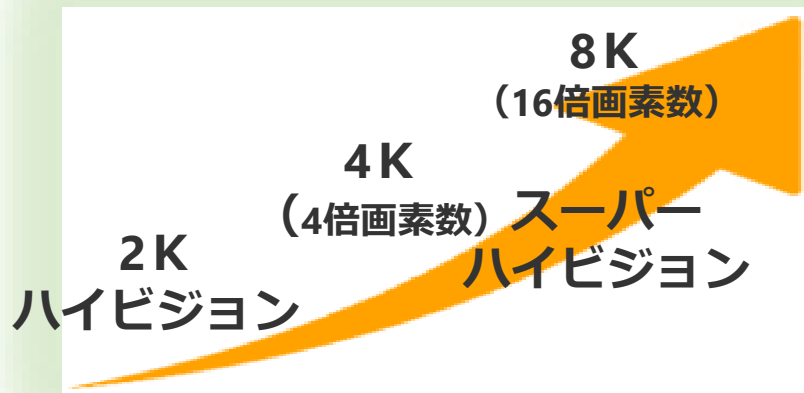
波形モニター



ラスタライザー

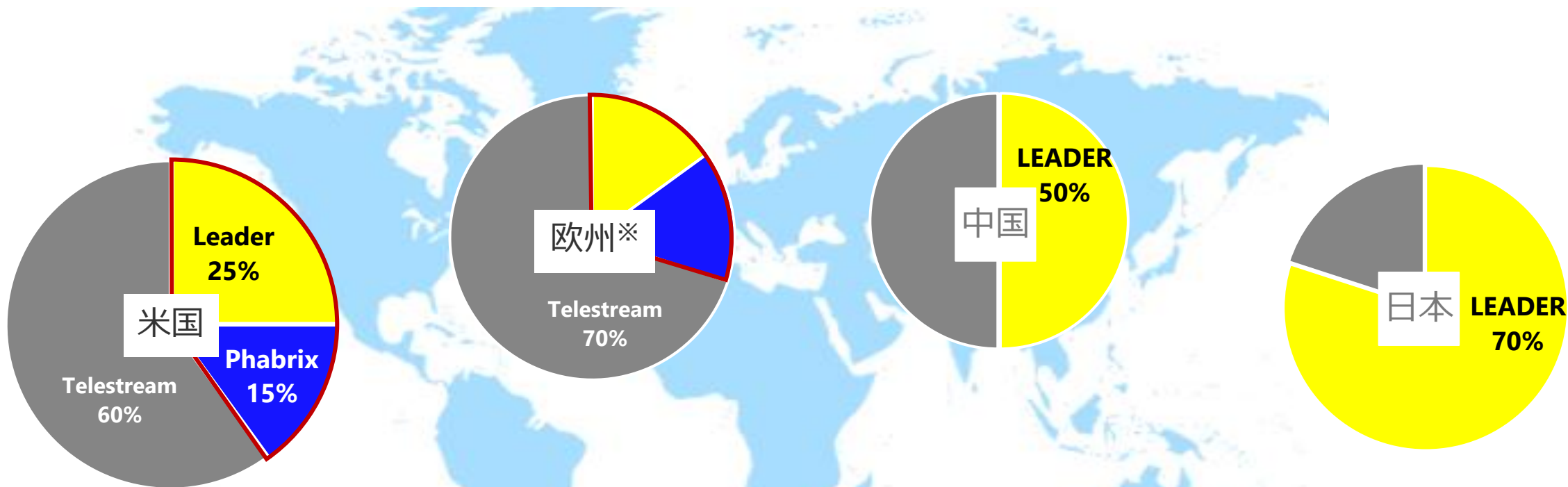


シグナルレベルメーター



競合状況と当社グローバルシェア

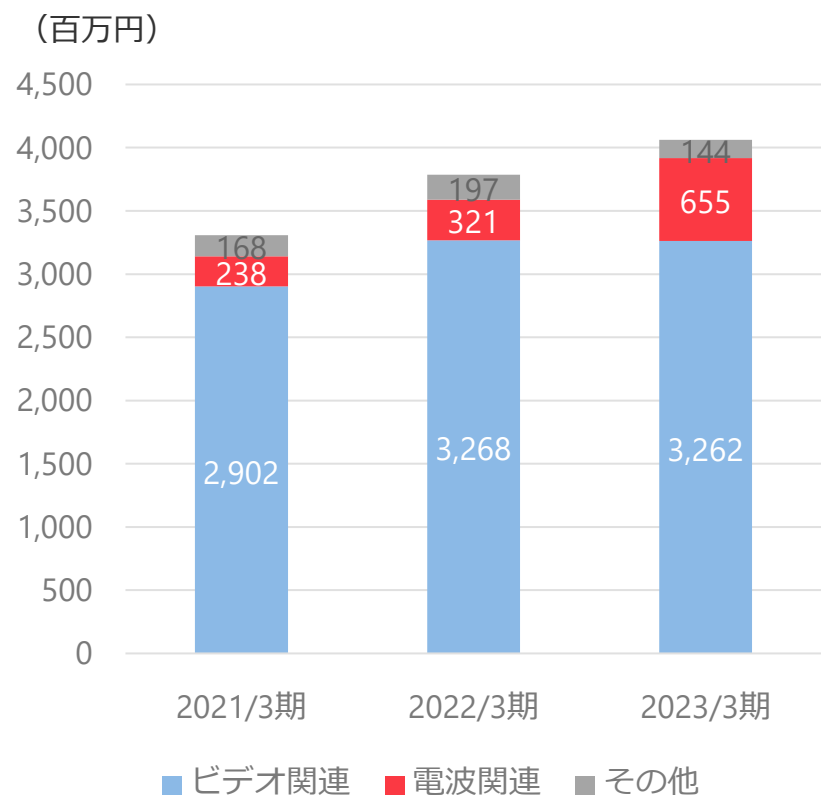
大きな環境の変化をチャンスと捉え、世界トップを狙う！



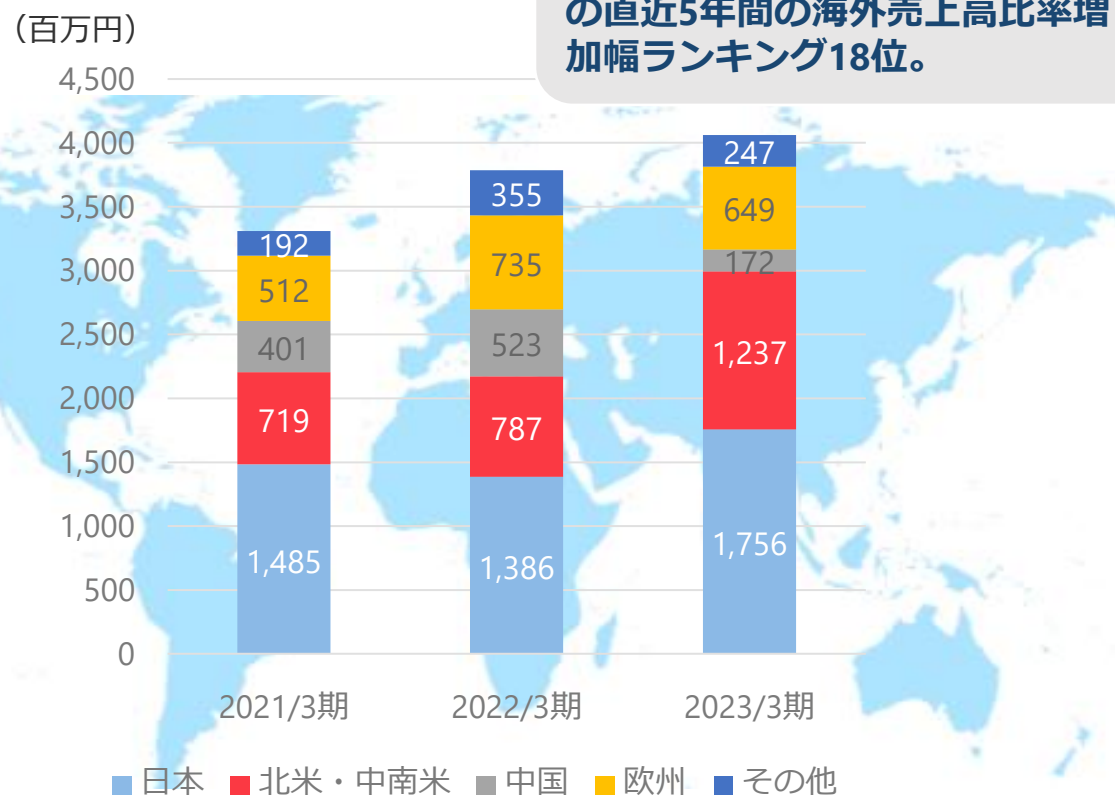
※欧州については中東・アフリカの数値除く

商品別・地域別売上構成

商品別売上高



地域別売上高



2023年4月10日付日本経済新聞、中堅上場企業「NEXT Company」の直近5年間の海外売上高比率増加幅ランキング18位。

Leader

成長戦略

~ For the VMA Leading Company

動画コンテンツの進化

イノベーションは、動画を「大量生産時代」へといざない、
ユースケースの拡大と共に、より高度な「画像処理」が求められる

動画の「大量生産時代」 → 多様なユースケース



高度な / 様々な「画像処理」需要

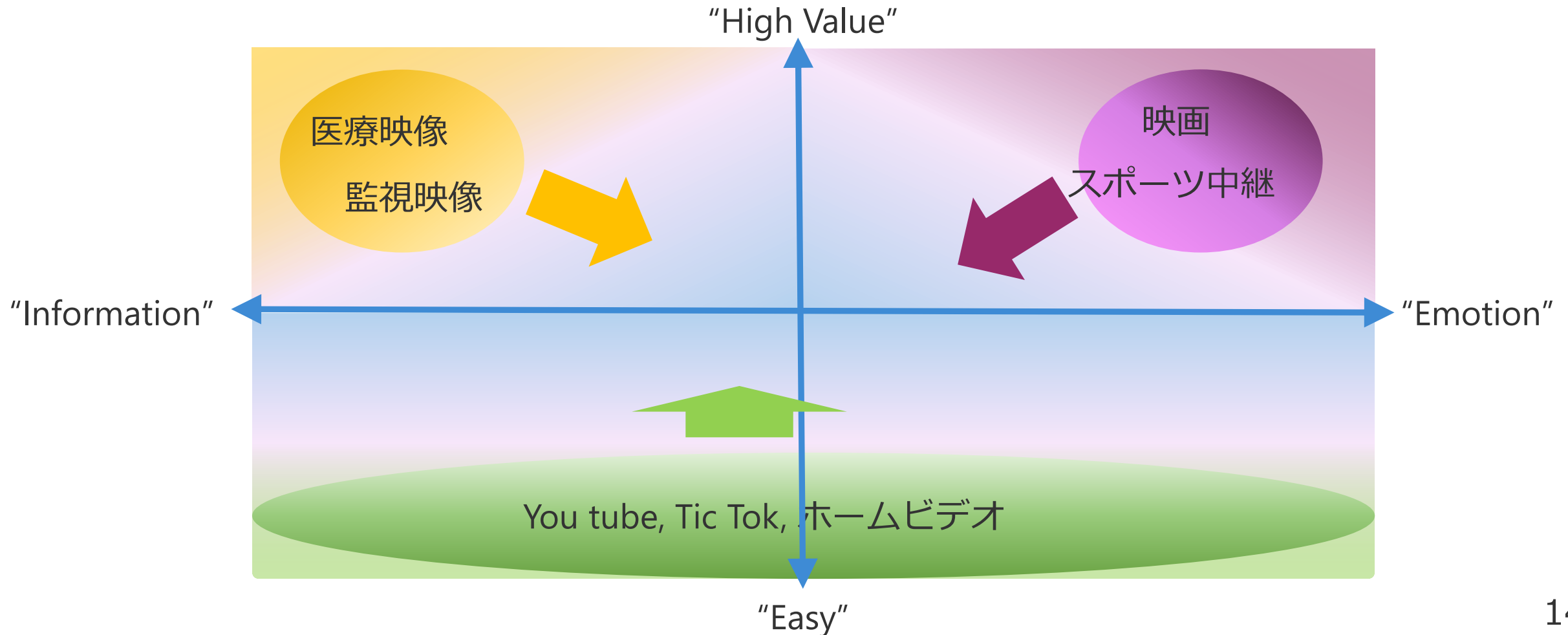
通信の高速化・大容量化

デバイスの進化・普及

ストレージの価格破壊

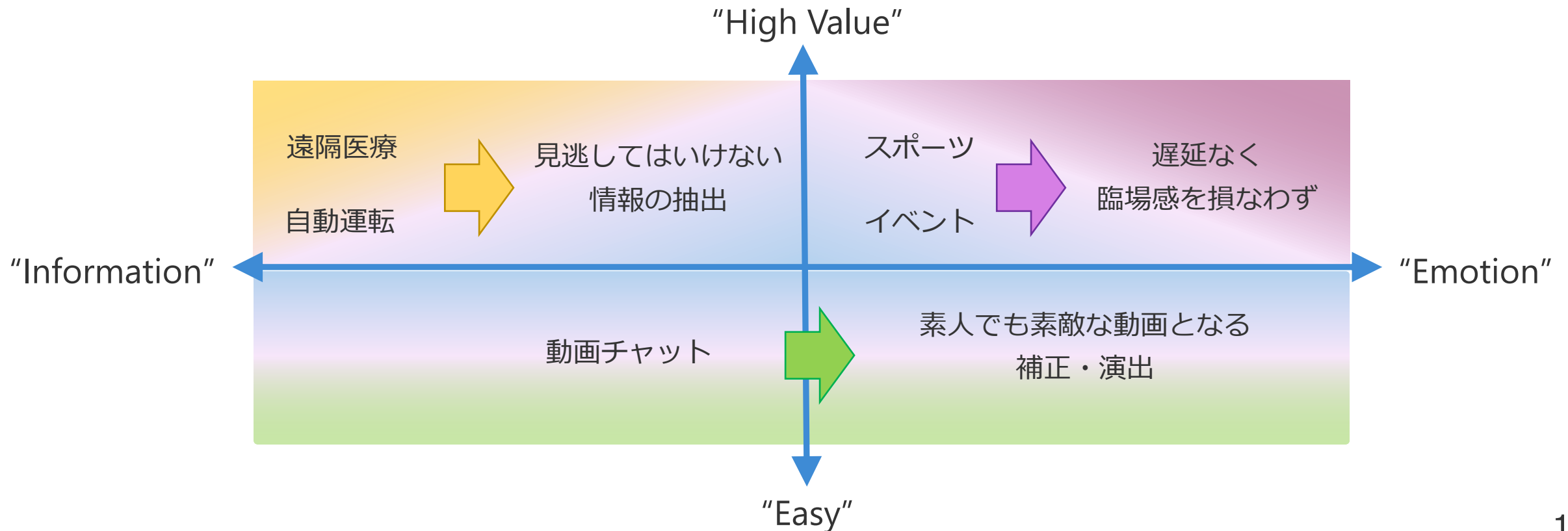
動画の「大量生産時代」

あらゆるコストが下がったことで、動画の制作・保存が容易となり、
動画の「大量生産時代」が到来しつつある



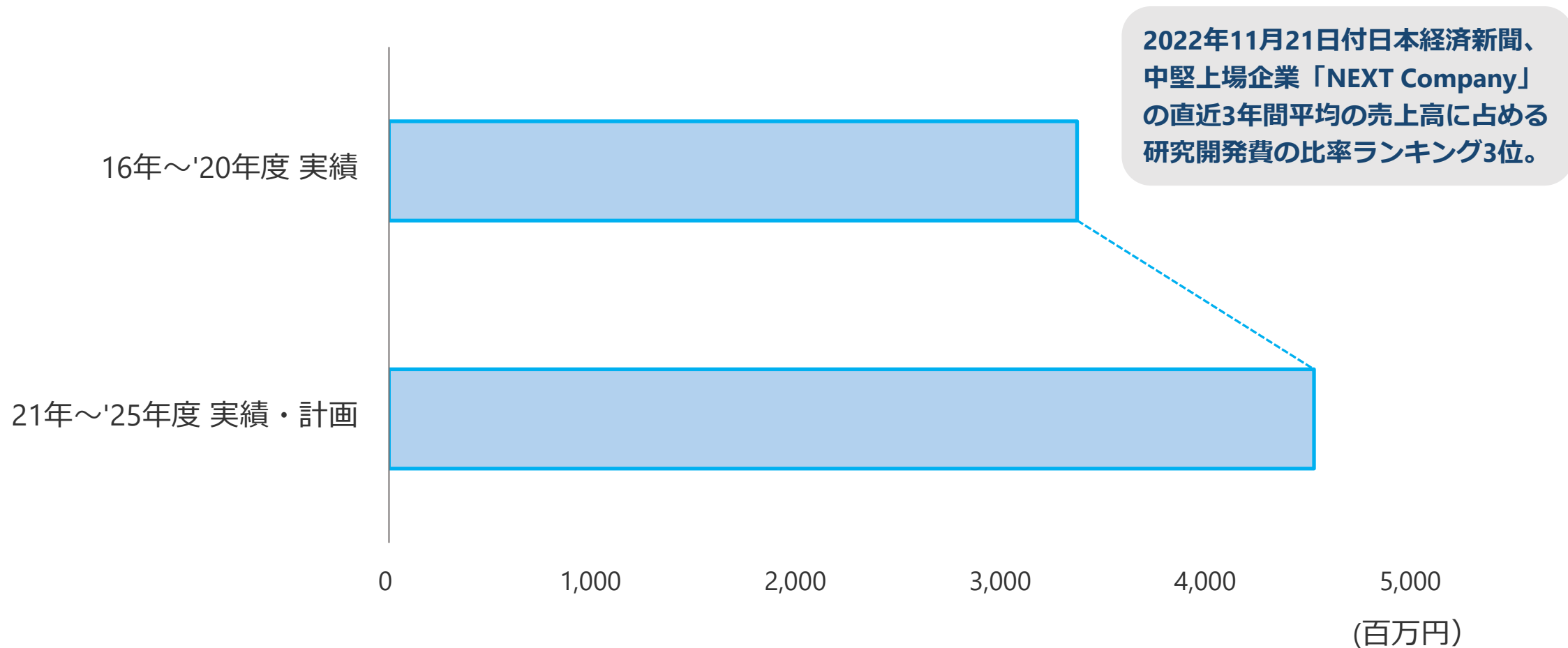
「画像処理」

動画のユースケースが劇的に拡大するに伴い、画像処理を
「ポイントを押さえて」「即時」に行うことの重要性が増していく
～特に「ライブ」動画では顕著



R&D指針

市場進化をけん引すべく、積極的にR&D投資を実施し続ける



新組織体制 ～23年度より

リーダー電子株式会社を3つのカンパニーへと再編する

グロースビジネス・カンパニー：機動的な新規事業開発を推進

- VMA (Video Management Automation) 事業部門
- イメージセンシング事業部門

バリュービジネス・カンパニー：安定・高収益事業から投資余力を創出

- 放送関連機器事業部門
- ワイヤレス事業部門

シェアードサービス・カンパニー：両カンパニーの効率的運営を支援

- TQM (Total Quality Management) 部
- 総務部

各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

GLADIAS Cloud

➤2023年度より本格的に拡販スタート。



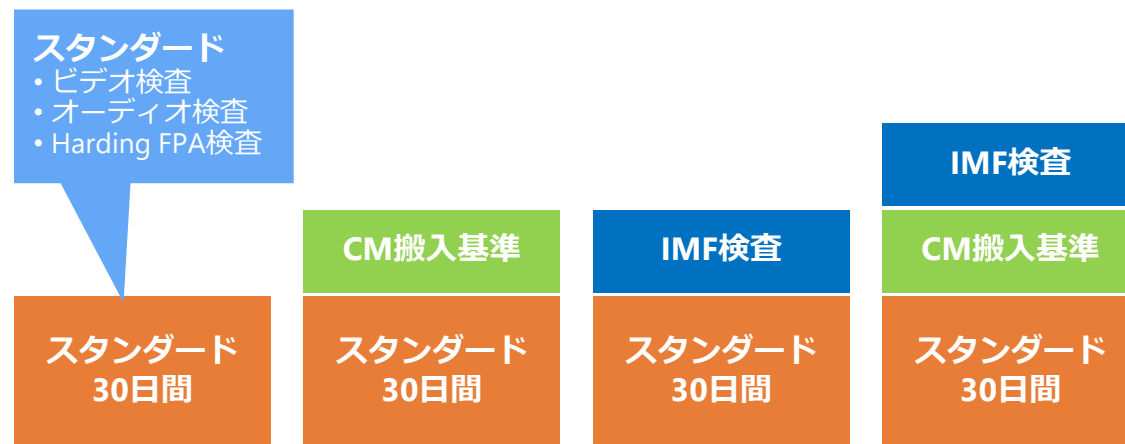
コンテンツチェッカー

GLADIAS Cloud

通常、人が目で見て判断する映像・音声のクオリティを、AIが代わって検査するクラウドサービスです。AI (ディープラーニング) を使って、コンテンツの異常と思われる部分を見つけ出します。



サブスクリプション プラン



車載カメラ向け解像度測定ソフトウェア

国内完成車メーカーで導入開始。

MTF Measurement Software SFR-Fit

車載カメラ向け 解像度測定ソフトウェア

魚眼レンズを備えた車載カメラの
解像度測定に最適



測定が困難であった魚眼レンズを備えた車載カメラ
の解像度を安定かつ、高精度に測定

画像の歪みやノイズ、画像処理に強い

ペーパーやフィルムなどのテストチャートが不要

**クライアントのニーズに応えるべく
開発・バージョンアップ継続**

SFR-fit販売拡大戦略

2023年度は日本国内におけるビジネスモデル（拡販体制）の確立期

- 1.日本国内完成車メーカーの横展開
- 2.日本国内完成車メーカー向けサプライヤー（カメラメーカー等）への縦展開



2024年度以降

海外自動車メーカー
自動車以外の産業に展開

事業目標

2つのデファクト・スタンダード獲得を目指す

【VMA事業部門】

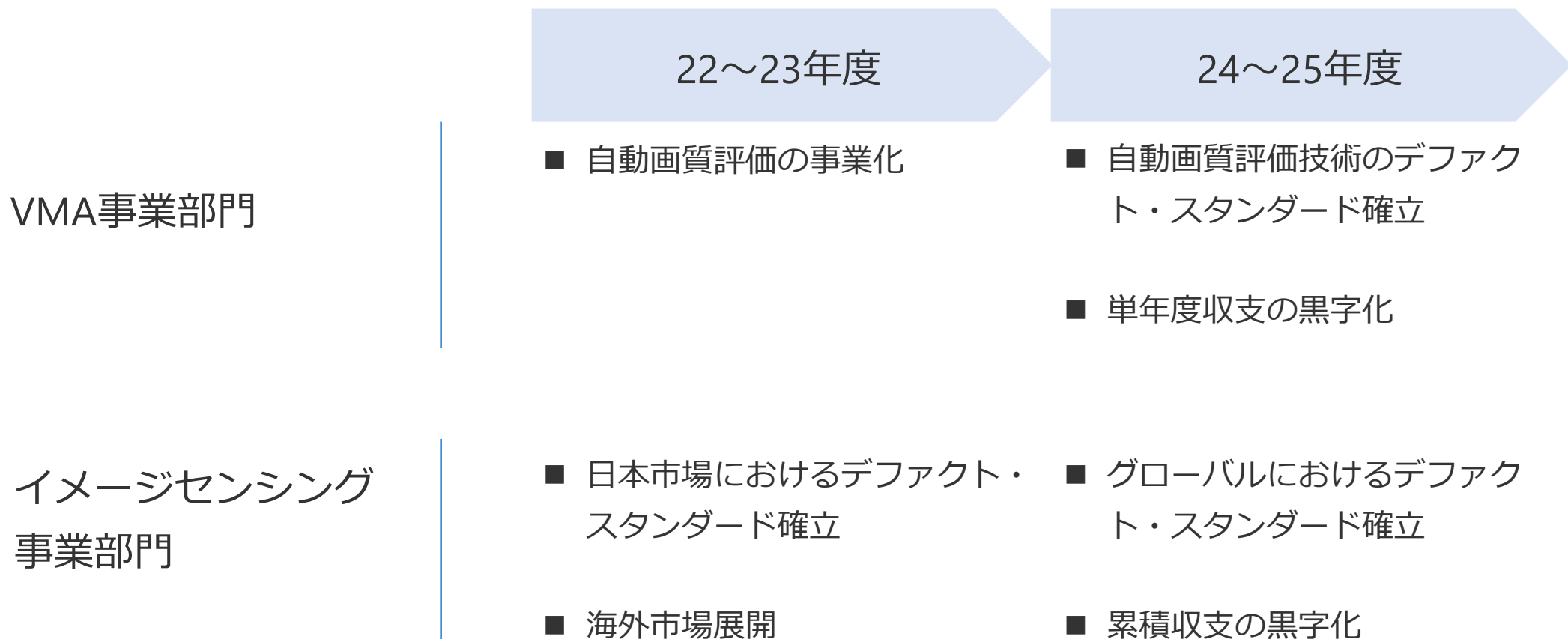
- 動画の品質を自動評価するソリューション

【イメージセンシング事業部門】

- 自動運転領域における魚眼カメラ検査ソリューション

マイルストーン

25年度に、デファクト・スタンダード獲得と収益化の両立を目指す



各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

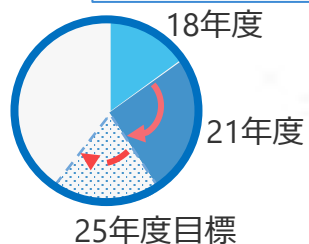
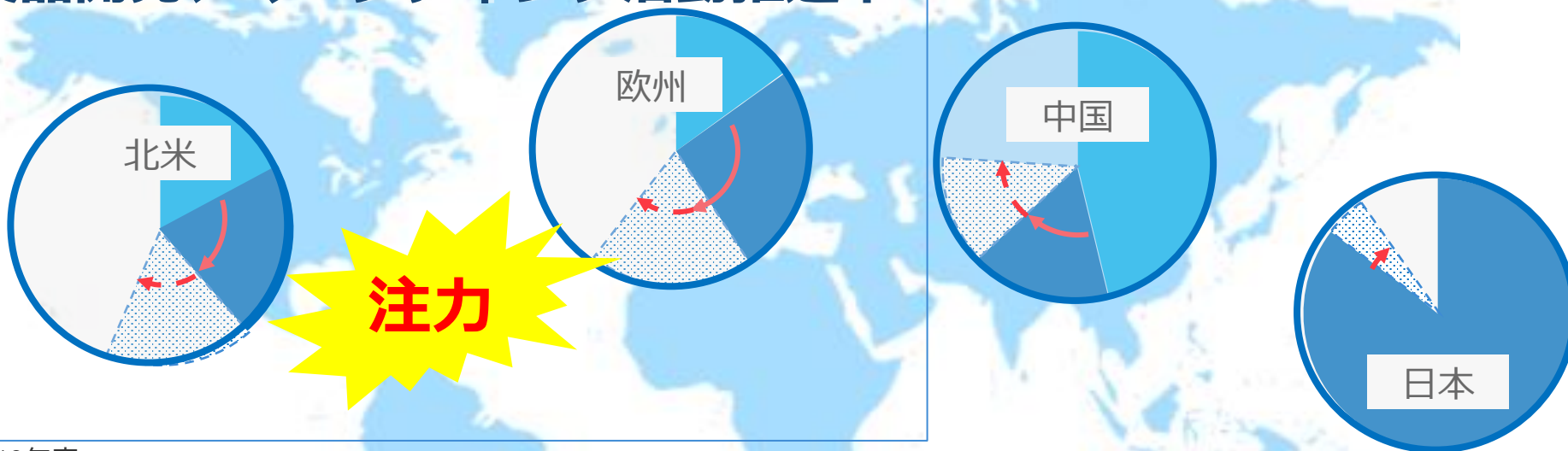
バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

事業目標

放送関連機器市場において、北米・欧州・中国における更なる拡販に取り組み、世界シェア60%超を目指す

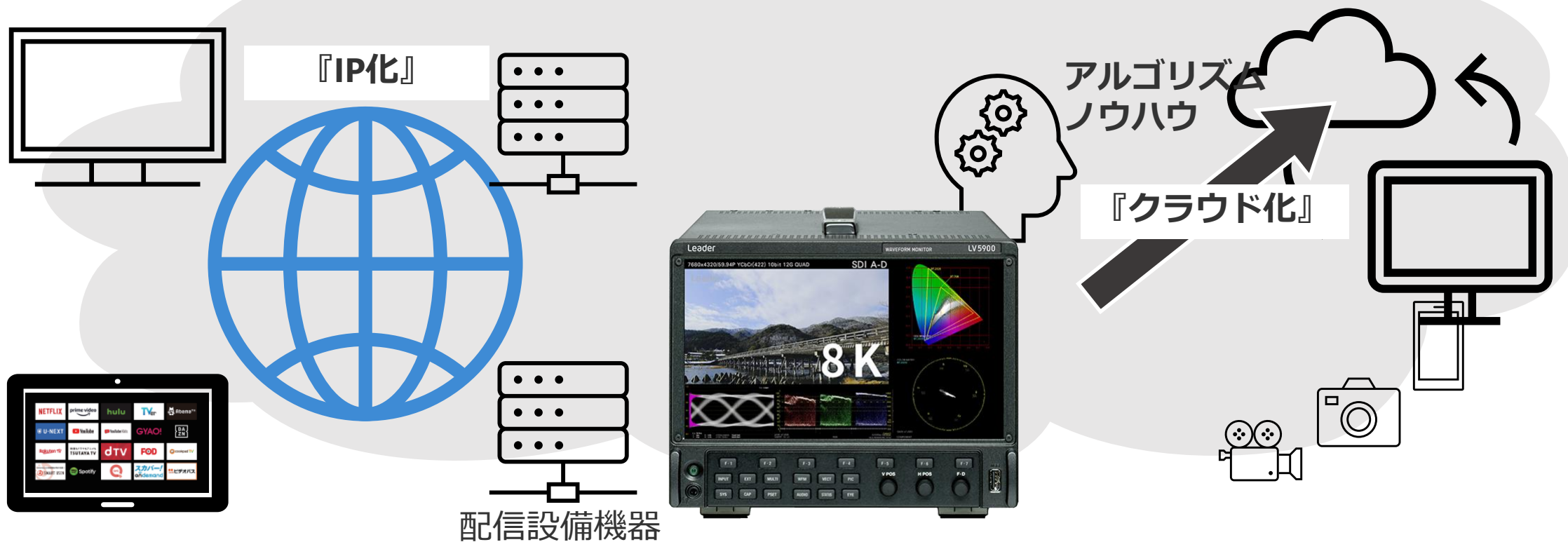
欧米のシェア拡大に向け経営資源投下
製品開発、マーケティング活動推進中



推定シェア

放送関連機器を取り巻く技術進化

急速に進む放送を取巻く2つの進化『IP化』『クラウド化』に向け、積極的投資を継続する



SYNC GENERATOR LT4670を発売



SYNC GENERATOR LT4670

- 独立6系統のアナログ同期信号出力、デジタルオーディオ出力、ワードクロック出力、LTCの入出力を標準で装備し、GNSS同期やPTP同期、3G-SDI(4K QUAD)、HD-SDI、SD-SDIによる任意パターンの出力などのオプションを用意。様々なシステムに応じた最適な同期系の管理が可能な設計。
- PTPポートは2系統のPTPエンジンを搭載しているため、それぞれ独立したネットワークでのPTPのシステム構築が可能。
- HTTP/HTTPS、REST-APIに対応し、ウェブベースのインターフェースによる制御やSNMPによる状態監視など充実したリモート監視・制御が可能。

- 外部同期信号へのゲンロック機能により入力信号に同期した運転が可能で、アナログビデオ同期信号に異常が発生した際に位相を保持するステイインシンク機能を搭載。
- 電源オプションを追加することにより二重化（ホットスワップ）した冗長運転を行うことができ、LT4670本体の電源を停止することなく、信頼性の高いシステム運用が可能。



米ラスベガスで開催のNAB SHOW 2023に実機を参考出品として展示

波形モニター・ラスタライザーにJPEG-XS対応オプション販売

世界初！

顧客からのご要望応え販売開始を決定



波形モニター LV560



ラスタライザー LV760

- JPEG-XSは、超低遅延軽量画像符号化システムで、データ量を2:1から最大15:1に圧縮し、視覚的に損失のない画質でインフラ設備の低コスト化を実現。
- 本オプションにより、SMPTE ST 2110-22 (JPEG-XS) のストリーム解析、エンコード、デコードが可能になり、JPEG-XSの圧縮された映像信号の評価や、パケットヘッダ解析、パケットエラー検出及びJPEG-XS、SDP、ST2110-40の比較表示が可能。
- SMPTE ST 2110-22 (JPEG-XS) の圧縮された映像テスト信号を出力する事も可能となり、放送局やネットワーク事業者へより高い利便性の提供を実現。

NAB SHOW 2023 (米ラスベガス) に出展



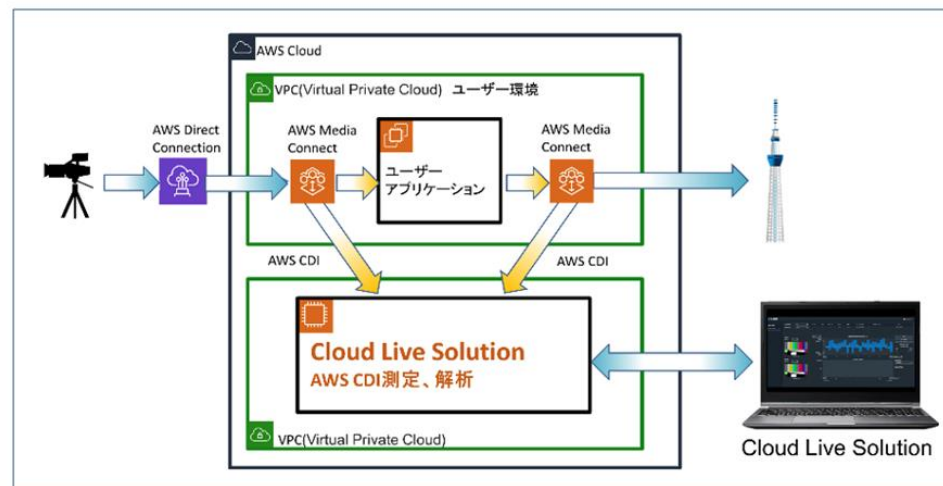
開催日: 2023年 4月15日~2023年4月19日

開催地: USA (ラスベガス)

開催場所: Las Vegas Convention Center

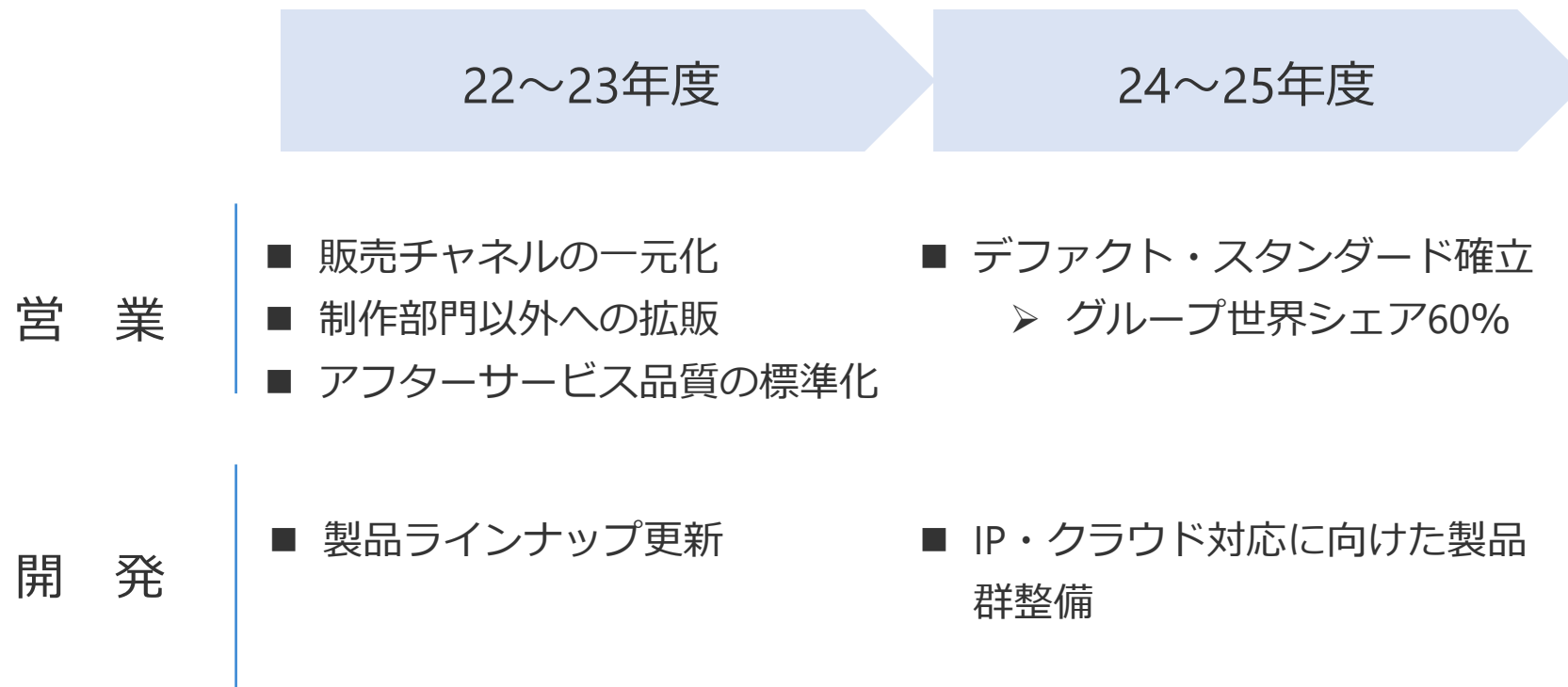
【出展内容】

1. LV5600-SER33 / LV7600-SER33
2. シンクジェネレーター-LT4670
3. 8K対応波形モニター-LV5900A
4. 波形モニター-LV5350 / EYEパターン対応波形モニター-LV5300A / ラスタライザー-LV7300
5. IPパケット監視装置LVB440
6. クラウドソリューション
7. QxP4K 25G-IP/12G-SDIポータブル 波形モニター
8. QxL / Qx
9. PHABRIX Sxシリーズ
 - ① IP 対応ポータブルアナライザージェネレーター Sx TAG
 - ② EYE対応ポータブルアナライザージェネレーター SxE
 - ③ テュアルリンク対応ポータブルアナライザージェネレーター SxD
 - ④ SDI対応ポータブルアナライザージェネレーター SxA



マイルストーン

製販両面からの取組を通じて、世界シェア60%超を目指す



各カンパニーの事業計画

グロースビジネス・カンパニー

バリュービジネス・カンパニー

シェアードサービス・カンパニー

グループ内のプロフィットセンターとして位置づけ、

- 両ビジネス・カンパニーに対する提供サービスの持続的向上
- コスト意識の向上

を目指す

マイルストーン

22～23年度

- サプライチェーン全体を通じた品質向上への環境整備
 - TQM部の創設

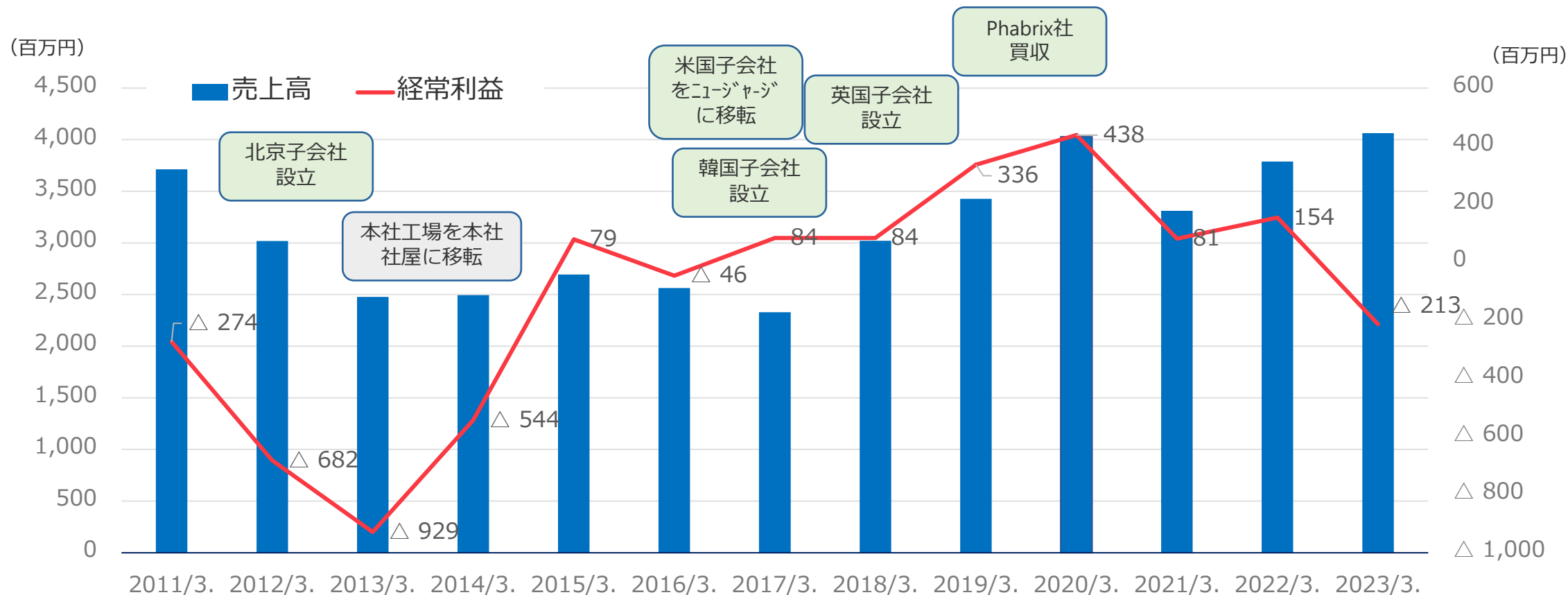
24～25年度

- TQMからの収益化システムの実現
 - 顧客満足度アップ→顧客維持力向上
 - アフターサービス収入アップ
 - コスト削減

2023年3月期 決算概要

業績推移

コロナ禍で激変した事業環境から再建中



2023年3月期 決算総括

Topic :

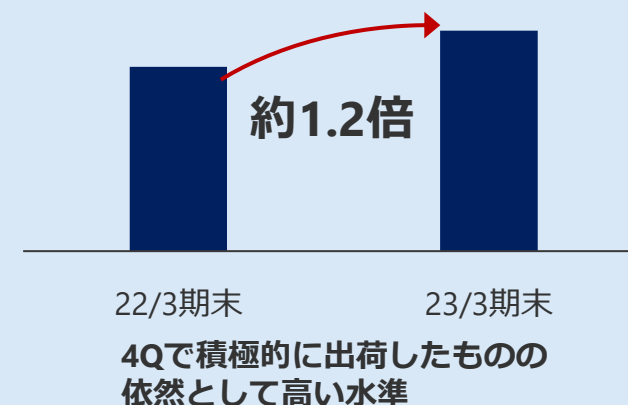
- サプライチェーンの混乱が想定以上に長期化（入手可能な部材用に設計変更などにより対応するも一部受注残となる）
- PHABRIX社ののれんに関する特別損失を計上
- 人材ポートフォリオの見直しの実施（希望退職の募集）

■ 売上高：4,063百万円（前期比+7.3%）、経常利益：△214百万円

中国	コロナ政策の転換による回復はゆるやか。本格回復には程遠い状況。
北米	マクロ環境は厳しい面もあるがIP対応機種を中心に新技術への投資が堅調。
欧州	パリ五輪に向けて投資の動きはあるものの、マクロ環境は冷え込んでおり、案件の動きは鈍い。
日本	前期から引き続き設備投資意欲低調。当面回復の気配無し。

■ 財務：自己資本比率 75.0%と盤石の財務基盤維持（前期末比△6.8pt）

受注残高 前年同期比較



特別損失の計上について

1. 希望退職者募集実施に関する特別損失を計上

① 希望退職者募集の概要

募集対象者 35歳以上の社員／募集人数 10名程度／退職日 2023年3月31日

② 募集の結果

応募者数：14名

③ 特別損失計上額 35百万円

2. Phabrix社ののれん・固定資産の減損に関する特別損失を計上

① 収益力強化を図るため、グループ会社の機能の整理を実施。Phabrix社は技術力・商品開発力・コスト競争力をより有効に活用するため開発に特化。

② 特別損失計上額 360百万円

2023年3月期 決算概要

北米において放送関連機器の販売が好調。前期比7.3%の増収。部材供給コストの増加、研究開発費の増加により営業損失計上。グループ体制強化のための構造改革を実施、特別損失を計上。

(単位：百万円)	2022年3月期 実績	構成比	2023年3月期 実績	構成比 %	前年同期比 %
売上高	3,787	100%	4,063	100%	+7.3%
売上総利益	2,494	65.9%	2,586	63.6%	+3.7%
販売費及び一般管理費	2,424	64.0%	2,901	71.4%	+19.7%
営業利益	70	1.9%	△314	△7.7%	-
経常利益	154	4.1%	△214	△5.2%	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	116	3.1%	△644	△15.8%	-

研究開発：918

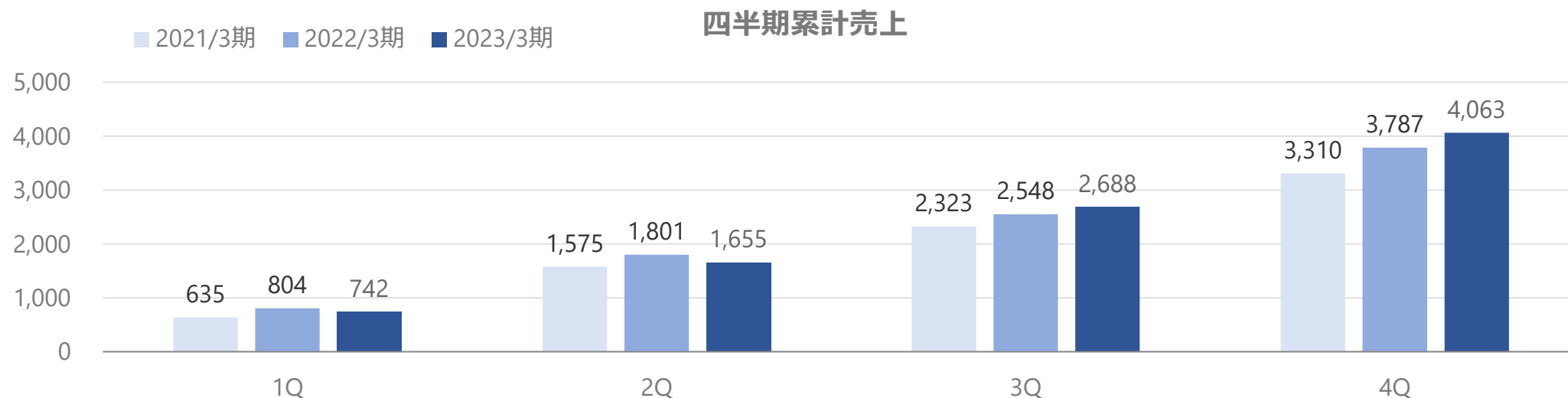
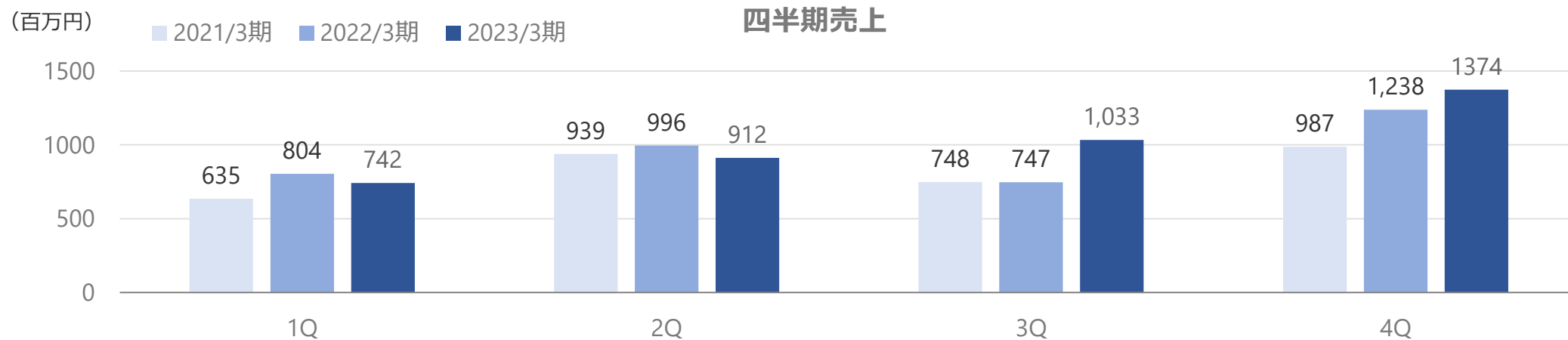
為替差益：+56

為替差益：+62

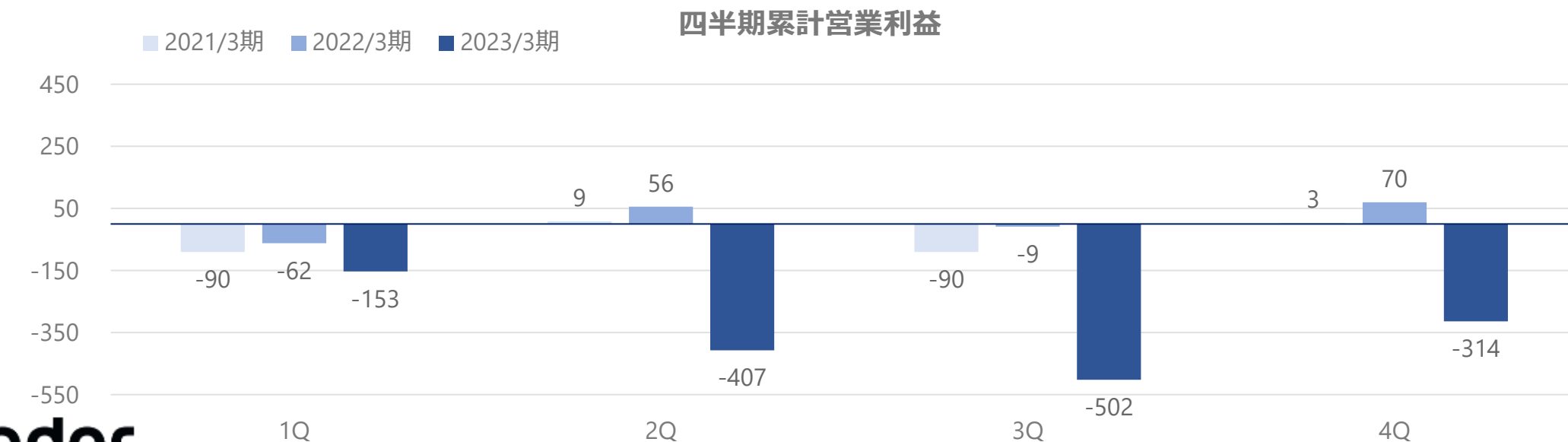
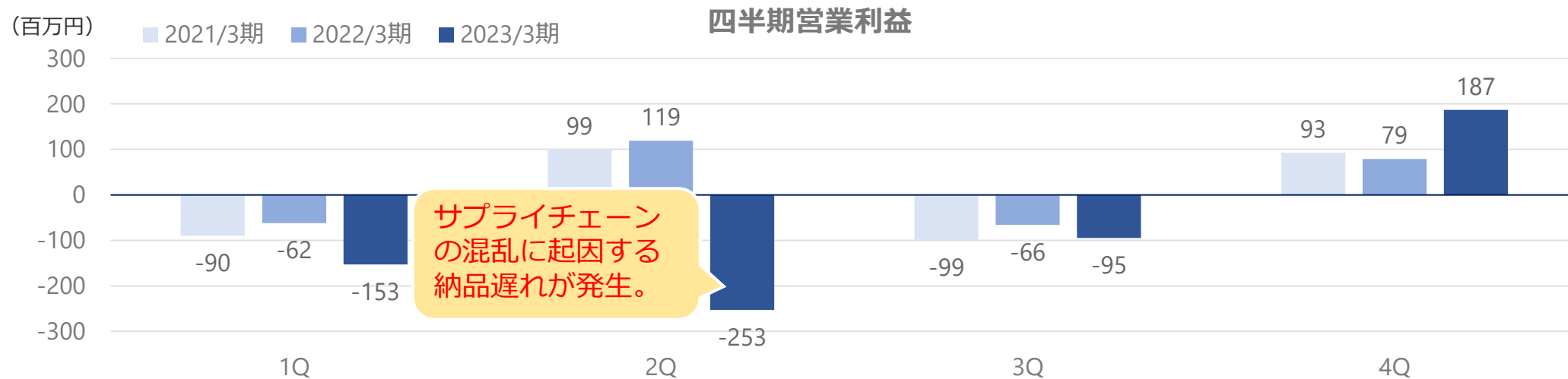
減損損失：360
事業構造改善費用：43

戦略的に研究開発費を増加 研究開発費：1,196百万円（前年同期比+278百万円）

四半期業績推移（売上高）



四半期業績推移（営業利益）



財務情報

単位:百万円	22年3月末	23年3月末
流動資産	4,260	4,418
現預金	3,005	2,428
受取手形、売掛金及び契約資産	673	1,235
商品及び製品	291	351
その他	290	404
固定資産	1,467	991
有形固定資産	636	503
無形固定資産	395	39
投資その他の資産	435	448
総資産	5,728	5,409
流動負債	561	840
買掛金	205	246
1年内返済予定の長期借入金	—	5
その他	356	589
固定負債	441	492
退職金に係る負債	305	344
その他	136	147
純資産	4,725	4,076
株主資本合計	4,821	4,138
その他包括利益累計等	▲96	▲61
負債純資産合計	5,728	5,409

資本コストをより意識した経営を重要な経営課題と認識

既存事業（バリュービジネス）でのシェア向上と新規事業（グロースビジネス）の収益化という自社経営資源による成長及びM&A等を通じた外部資源を活用した成長によりROEを改善することを目指す一方、自己株取得等の施策を通じて資本コストを低減することにより、企業価値を向上し、資本コストを安定的に上回るROEの達成を目指す。

主な増減要因

- 現金及び預金：△576百万円
- 受取手形、売掛金及び契約資産：+562百万円
- のれん：△252百万円
- その他流動資産：+245百万円
- 買掛金：+41百万円

自己資本比率75.0%（前期末比△6.8pt）

2024年3月期 通期計画

外部環境認識

環境

1. 外部環境は2023年一杯は厳しい状況が続くと想定。
 - エリアごとの環境想定
 - 中国 本格回復までには時間が掛かる。
 - 北米 マクロ環境の厳しさはあるものの堅調。新技術への投資は意欲的。
 - 欧州 パリ五輪に向けての期待感はあるものの楽観視はできない。
 - 日本 当面投資の拡大は見込めない。
2. サプライチェーンの混乱は落ち着きつつあるも暫く継続することを想定。

影響

- 少なくとも2023年度前半までは売上の大きな拡大は見込めない。

対策

- **厳しい外部環境下でも利益確保できる体制作り。構造改革の推進。経営資源の効率化。**
- **設計変更を含めた、サプライチェーン強化への取り組み。**
- **動画の大量生産時代に対応するべく積極的な開発投資を継続。**

構造改革の取り組みについて

フェーズ 1

2023年3月期

- 人材ポートフォリオの見直し
 - 希望退職者募集の実施
 - 中国
 - 日本国内
- グループ内各社の機能の見直し・整理

フェーズ 2

2024年3月期

- 飛躍に向けた内部体制固め
 - カンパニー制導入
 - グロースビジネス・カンパニー
 - バリュービジネス・カンパニー
 - シェアードサービス・カンパニー
- 主要製品ラインナップの一新

2024年3月期通期業績計画

- 動画の大量生産時代に対応するべく積極的な開発投資を継続。
- 引き続き発生している原材料のひっ迫は、設計変更などの自社努力で克服。サプライチェーンの強化は継続。
- SFR-fit拡販体制確立。

(単位：百万円)	2023年3月期 実績	構成 %	2024年3月期 計画	構成 %	前年同期比 %
売上高	4,063	100%	4,250	100%	+4.6%
営業利益	△314	△7.7%	220	5.2%	—
経常利益	△214	△5.2%	220	5.2%	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	△644	△15.8%	120	2.8%	—

株主還元

企業成長投資と株主還元のバランス重視。安定的な配当を継続。

(配当：円)

